

肺炎球菌ワクチン

えはら内科クリニック

江原 浩司 先生

肺炎をはじめとする病気から体を守るための日ごろの心掛けとして、外から帰ってきた時にはうがいや手洗いを行う、また散歩などの適度な運動をする、入浴などで体を清潔に保つことなどがあります。

毎年冬になるとインフルエンザワクチンを接種する人は多いのではないのでしょうか。特に高齢者などでは病気にかかるリスクが高くなることもあるため、接種を勧めています。

ところでインフルエンザワクチンのほかに、肺炎球菌ワクチンというものがありますか。これは肺炎球菌という細菌に対するワクチンで、この菌が引き起こす感染症を予防するためのものです。

肺炎球菌の原因となる微生物には各種細菌やウイルスなど、たくさんの種類がありますが、日常生活の中で起こる肺炎（市中肺炎）の原因は肺炎球菌によるものが3割前後と一番頻度が多くなっています。肺炎球菌には80種類以上の型がありますが、肺炎球菌ワクチンはそのうちで感染する機会の多い（8割程度を占める）23種類の型に対して5年以上の免疫をつけることができるものです。ただし過去にこのワクチンを受けたことのある人は、再接種（2回目）はできません。

冬の時期にインフルエンザにかかることが肺炎を引き起こす要因となるため、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの両方を接種することでより高い肺炎の予防効果があります。

特に次のような人にワクチン接種をお勧めします。

- 高齢者（特に65歳以上の人）
- 心臓や呼吸器に慢性疾患のある人
- 糖尿病の人
- 腎不全や肝機能障害のある人

ワクチンの接種については、かかりつけの医師によくご相談ください。